

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～民間研究機関の経済予測、いわゆる「埋蔵金」に依存してきた財源捻出の限界について述べます。

2012/2/17 「民間調査機関の経済見通し(2012年2月)～景気シナリオに大きな変化なし。復興需要や輸出の回復が国内景気を牽引する見込み～」

2012/2/1 「2008年度の国債残高削減と特別会計改革を振りかえる～特別会計の剰余金・積立金に過大な期待はできない～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～欧州発の金融危機の拡大阻止の動きを受けた世界経済の反応を読みます。

2012/2/29 「マーケットを左右する過剰流動性期待～過剰流動性の副作用が新たなリスク要因に～」

2012/2/28 「対ドルでの円高リスクは遠のいたのか～レンジは切り上がったが、本格的円安の条件は未だ整わず～」

掲載カテゴリ：寫峰義清の「マーケットウォッチング」

～底堅い消費の背景、インフレーターゲット？注目を集める日銀の新たな緩和策導入を分析します。

2012/2/21 「景気を支える高齢者消費～高齢者消費を動かす要因を探る～」

2012/2/14 「日銀が『物価安定の目途』を導入～資産買入基金を10兆円増額～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～経常収支が赤字に転落した場合、日本経済に生じる変化を予測します。

2012/2/21 「経常赤字による日本経済の損失額～経常黒字消滅で3年後の実質GDP▲4.1兆円と+16.7万人の失業増をもたらす～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～綱渡りの欧州財政問題、それぞれに不安を抱える世界の先進国、新興国の経済情勢を解説します。

2012/2/14 「欧州の国債格下げ再び～大胆な財政再建策が評価されてきた英国の最上位格付けも安泰でない～」

2012/2/15 「アジア(中国・インド・NIES・ASEAN5)経済見通し(2012年2月)～欧州問題の行方は引き続きアジア経済にとってもリスク要因となる～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

昨年の貿易収支がおよそ半世紀ぶりの赤字となり、投資収益などを加えた日本の経常収支まで赤字に転落するかに注目が集まっている。財政赤字が積み上がるなか、国内の金余りが無くなるなら、国債による資金調達は今ほど容易ではなくなるかもしれない。それでは経常黒字の維持が至上命題なのだろうか。

二十数年前のバブル期には、世界でも突出した日本の株高を正当化するために、その理屈探しが盛んだった。1989年5月の新聞記事の切抜きには、輸出主導の経常黒字で生じた資金が資産価格を押し上げ、株式の価値が高まる好循環が続いている、という見解が載っている。その後長い間、株式市場や不動産市場の極端な低迷ぶりを目にした経験からすれば、この理屈には首を傾げる。その後も日本ですっと経常黒字が続いた背景には、国内で消費や投資にお金の使い道が見出しにくい「金余り」もあった。(H. U)